

一般入試前期A日程1日目

国語

I

出典 『オックスフォードからの警鐘—グローバル化時代の大学論』（荻谷剛彦）中央公論新社
2017年

世界大学ランキングの上位を目指し始めた日本の大学教育について英国の大学で教鞭を執る元東大教授が冷徹に分析する本です。論旨は明快であり、文意を掴むのは難しくありません。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は①～⑤）

a 不可避 b 熟知 c 腐心 d 疲弊 e 裾野 がそれぞれ正答です。全問正答者は全体の1%でした。「疲弊」を「疲幣」と書いている答案が多く、「腐心」と「裾野」を書けていない答案が多数でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は⑥～⑧）

空欄①は直後の「言語表現自体」が、空欄②は直後の「後押ししている」が、空欄③は離れますが空欄④の1行前にある「西欧モデル以外の多様性」がヒントとなります。正答は①が⑦、②が②、③が⑦であり、正答率はそれぞれ63、78、36%でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑨）

1ページの最終段落をよく読めば正答は⑤とわかるはずですが。正答率は29%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑩）

傍線部Bの直前の段落をよく読めば正答は⑤であることが導けます。正答率は63%でした。

問5【言葉の知識を問う問題】（解答番号は⑪）

「ないがしろにする」の意味と正答である④の「等閑に付す」という言葉の意味を知っているかを問いましたが、正答率は3%でした。⑦を選ぶ受験者が最も多かったです。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑫）

傍線部Dの直前の段落をよく読めば正答は③だとわかるはずですが。正答率は68%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑬）

傍線部Eの直前の文を読めば正答が①だと気づくはずですが。正答率は73%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑭）

傍線部Fの直前の段落に正答の②を導くヒントが書かれています。正答率は60%でした。

問9【文脈から言葉の意味を特定する問題】（解答番号は⑮）

傍線部Gの前後の段落をよく読めば正答が③だとわかるはずですが。正答率は54%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑯）

傍線部Hの直前を読めば正答の④は質の重視の政策だとわかります。正答率は48%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑰）

傍線部Iの段落と本文最終段落をよく読めば正答の⑥が導けます。正答率は33%でした。

問12【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は18）

正答率は50%でした。この節で著者が最も言わんとすることは最終段落にまとめられていますので、その1つ前の段落から論旨をたどれば正答の⑦を導くのはたやすいでしょう。

問13【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は19）

正答率は55%でした。この節の第1段落で著者は質より量の面を重視していることを批判し、第4段落で「質の重視への政策転換」について言及していることから、正答は⑥であると導けます。

問14【内容合致問題】（解答番号は20・21）

正答は④と⑧で正答率は23%でした。②や③を選ぶ誤答が目立ちました。英語による質の高い授業の増加が日本の文系学問の強みを弱めるといったことを筆者は述べていないため②は不正解です。③については「知識の一般化や普遍化を排除する点で」が誤りです。

II

出典 『チョコレートの世界史—近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石』（武田尚子）中央公論新社2010年

チョコレートの原料カカオが、カトリック諸国で教団運営に貢献し、宗教的あるいは医学的な論争を歴史的にたどりながら、帝国の政治力・軍事力と結びついていた実態を説明しています。段落ごとの展開に注意して、文脈を正確に把握することが大切です。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は22～28）

a 廉価 b 規範 c 節制 d 介在 e 堪能 f 周到 g 塗布 がそれぞれ正答です。

全問正答者はいませんでした。「周到」の「到」について、人偏を付した「倒」とする答案が散見されました。

問2【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は29・30）

空欄 X は「未知の味」へのアプローチが宗教的に「悪」とみなされる状況から、また空欄 Y は「たどった」という表現にふさわしく、かつ文脈の上で整合性のある語を論理的に導く必要があります。正答は、空欄 X が①で、空欄 Y は⑧です。正答率は、それぞれ92%と58%でした。

問3【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は31）

4つの体液の性格は、「熱」「冷」と「乾」「湿」の $2 \times 2 = 4$ 通りの組合せからなるので、空欄 I から空欄 IV までの解答はすぐ得られるでしょう。空欄 IV を含む「ところが」で始まる段落から文脈が変化することに気づけば、空欄 V と空欄 VI が異なる状況を述べていることは容易に判断できるはずですが。正答は⑧です。正答率は45%でした。

問4【空欄補充 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は32）

ココアの機能を「薬品」に限定することは困難であるとの文脈を読み取ることが必要です。正答は⑥です。正答率は54%でした。

問5【傍線部の理由 文脈把握に関する問題】（解答番号は **33**）

傍線部Aのすぐ後で「カカオの美味に驚嘆した」との記録に言及しているのは、推論の根拠を示したものです。正答は⑤です。正答率は71%でした。

問6【傍線部の説明 内容理解に関する問題】（解答番号は **34**）

「戒律」がカトリックの断食習慣に、また「違反」がそれを破ることに相当すると気づけば正答は導けるでしょう。正答は⑥です。正答率は74%でした。

問7【傍線部の理由 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **35**）

カカオの効能を体液病理説の立場から論ずると、学説に矛盾した状況を認めることになるとの文脈から、正答は容易に得られるでしょう。正答は④です。正答率は73%でした。

問8【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **36**）

中南米にいち早く植民地を築いたスペインがポルトガルをも支配下に治めたことは、帝国支配が地球規模に及んだとの文脈を示しています。正答は⑥です。正答率は40%でした。

問9【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **37**）

宮廷ココア担当官の王室病院での役割は後段に記されています。医学知識をもってポルトガル兵士に接した役割を正確に把握することが鍵です。正答は①です。正答率は42%でした。

問10【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **38**）

ブラジルのバイア地方がカカオ生産地として成長するのは、本文冒頭の記述によれば19世紀です。常に全体の文脈を意識しましょう。正答は⑥です。正答率は32%でした。

問11【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **39**）

ココアがカトリック修道会の教団運営における資金源であったとの説明を受けて、論争について問題提起します。それは後段で詳述されます。正答は⑥です。正答率は23%でした。

問12【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **40**）

貴族の間でココアを飲む習慣が広がり、宮廷ココア担当官が帝国の政治力・軍事力の維持に貢献したことを述べた段落です。正答は①です。正答率は16%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は **41**・**42**）

正答は②と⑨です。①については渋みに対する評価の違いがココアの薬品・食品、飲み物・食べ物の論争を引き起こしたわけではありません。③については宮廷ココア担当官の二つの役割すなわち政治力と軍事力への貢献のうち、軍病院などにココアバターを常備することは、軍事力の維持への貢献であって、権力パフォーマンスすなわち政治力への貢献ではありません。④は「実はココアではなく砂糖菓子こそが権力のシンボルであった」が誤りです。⑤についてはイエズス会が本国の教団維持費を納付していたとの記述は、一六九三年の書簡の記述ではありません。⑥に関してはトマス・アクィナスは医学者ではなく、神学者として記述されています。⑧はオランダやイギリスの本国がスペイン、ポルトガルと記述された混乱した文章です。②の正答率は32%で、⑨の正答率は57%でした。完全正答率は17%でした。